○６月の人権に関する週間・記念日等　「男女雇用機会均等月間」、人権擁護委員の日（６／１）、男女共同参画週間(6/23 ～ 29)、ハンセン病を正しく理解する週間、ＨＩＶ検査普及及び週間(6/22)など

十島村教育委員会だより　令和元年５月号

むらかーカラ情報

南北１６０km　「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822鹿児島市泉町13番13号
TEL　099-227-9771

５月・・・県知事と県教育長の十島村来訪

十島村教育委員会
教育長　有村　孝一

4月29日の事です。県知事としては、平成18年以来13年ぶりに三反園知事が十島村に来訪されました。今回は、3人の県議会議員の皆さんも同行してくださいました。30日早朝の口之島に到着したときは、あいにくの雨にもかかわらず、島民の皆さんがたくさん出迎えてくださいました。知事には、皆さんへのあいさつの後、オリーブの木を植樹していただきました。その後、中之島まで「フェリーとしま２」で移動しました。中之島からは、「ななしま２」に乗船して、雨の中を各島に訪問してくださいました。島ごとに大勢の方々が大きな拍手で迎え、島民の皆さんに大歓迎していただきました。

最後の宝島に着くと、早速、議員の皆さんとの対談や村民の代表の方々との車座対話が開催されました。皆さん方には、それぞれの立場で堂々と話をしていただきました。

その後村民との交流会がかれ、トカラの特産物を食べながら話に花を咲かせました。翌5月1日には、奄美経由で帰路に着きました。知事は、あいさつの中で、「この十島村で、平成最後の日を過ごし、令和最初の日を迎えるというのは、記憶にいつまでも残るでしょう」と、話されていました。

5月の13日からは、レントゲン便を活用した年度当初の学校訪問を行いました。今年は、東條県教育長をはじめ、教職員課長、義務教育課長、義務教育課指導監、鹿児島教育事務所長など9名と十島村教育委員会の総勢12名で学校を訪問しました。

14日は、朝5時から口之島小中学校の訪問から始まりました。それぞれの学校では、今年度の学校経営について校長から説明があり、教頭からは、学力の状況についての説明がなされました。最後にそれを受けての質疑応答が行われました。検診の進み具合を見ながらの訪問でしたので、島によっては時間が少ない所もありましたが、おおむね1時間ほどの中で、有意義な訪問になりました。

東條教育長からは、「たいへん自然環境の厳しい中で、教育実践に努めておられることに敬意を表します。」という挨拶もありました。1 日目は、悪石島小中学校で終わりまして、翌 15 日は、小宝島と宝島の訪問をして無事に終了することが出来ました。

二つの訪問を通して、厳しい自然環境でも村民そして児童生徒が、元気にたくましく生活し、学んでいるという姿を、直接見ていただいたことは、大変良かったと思います。

十島ファミリー劇場始まる！

今年１回目となる「十島ファミリー劇場」が5月11日（土）小宝島で開催されました。みやまおとどけコンサートとして，みやまコンセールの方々にディズニーメドレーやジブリメドレーなどよく知られている曲を演奏していただきました。最後は，「見上げてごらん夜の星を」をみんなで合唱し，楽しい一時を過ごしました。

これから各島で開催していきます。公演内容については,学校や社会教育委員,自治会・区長さん等にお尋ねください。天候に恵まれますように祈りたいです。

今年も母の日に合わせ，5月11日（土）鹿児島市本名町の田知行義久さんから，三島村と十島村の子どもたちにカーネーションが届けられました。

子どもたちは，母親や祖母に感謝の気持ちを伝えカーネーションを渡しました。田知行さん，毎年ありがとうございます。

【鹿児島港】

【口之島】

【悪石島】

【小宝島】

シリーズ――新聞に投稿１
（平成３１年４月２８日南日本新聞「若い目」掲載）
対馬丸を語り継ぐ　悪石島小6年　片野田　楽

「決して話してはいけない」。そうかん口令を出されたとき、生存者は苦しく悔しかっただろう。

総合的な学習で対馬丸について考えた。対馬丸とは、戦時中に沖縄から九州へ向かう予定だった疎開船の名前だ。疎開の途中、私が住む悪石島沖で、アメリカ軍潜水艦の魚雷攻撃を受け沈没した。

授業で、実際に生き延びた人たちの話を聞くことができた。「決して話してはいけない」。その一言が心に残った。対馬丸の沈没は、軍に関する重要な情報だったため、話すことを厳しく禁じられたという。

対馬丸のような悲惨な出来事は、これからの世の中にあってはならない。悪石島に住む島民の一人として、対馬丸のことを未来へ語り継いでいきたい。（十島村）

（令和元年５月９日南日本新聞「ひろば」掲載）
戦争を語り継ぐ頼もしい子供たち　山鹿　博子（大崎町）

先日二八日付本紙若い目欄で悪石島小の片野田楽さんの「対馬丸を語り継ぐ」を読みました。

私の母は、小学校６年生の時に対馬丸の隣の船に乗って疎開したそうです。悪石島沖で沈没した対馬丸の乗客が漂流しているのを目の当たりにし、「助けて」と叫ぶ声は今でも忘れられないといいます。

戦後、沖縄に戻った母は、残った家族７人全員が地上戦の犠牲になったことを知らされました。１人疎開したおかげで助かった命。「疎開先でお世話になった方にお礼がいたい」という、母の長年の夢を十年前にかなえ、それから交流を続けています。

一昨年は、そのお孫さんが通う熊本県阿蘇郡の小国小学校６年生が母の体験を劇にして町の「人権啓発フェスティバル」で発表してくれました。

戦争体験者が高齢化していく中、片野田さんの「未来へ語り継いでいきたい」という言葉は頼もしく、うれしく思います。過去の悲劇を繰り返すことなく、令和が平和な世の中でありますように願います。

シリーズ――新聞に投稿２
（令和元年５月１０日南日本新聞「若い目特集」掲載）
新たな魅力に触れた　小宝島小6年　三尾　笑来

傾斜は三十度くらいだろうか。１歩進めばもどされて転ぶ。登り道は砂利だけの道だ。

１カ月ぶりに会った家と諏訪之瀬島を訪れ、標高８００メートル弱の御岳に登った。最初の難関は旧登山道。ゆるやかだが、登っていくと案外つらい。これだけで片道１時間かかった。踏んばっても足元が滑り、何回も転んでしまった。

途中２匹のヤギに出合った。かわいくてエネルギーがわいてきた。山はだをうめるマルバサツキが、目にまぶしい。難関を乗り越えると、噴火口が待ちかまえていた。茶色のカルデラで大きくて迫力があり、「すごい」としか言いようがない。

東京から小宝島に山海留学し１年目。小宝島の自然を満喫している。今回、諏訪之瀬島の魅力に触れた。留学中に十島の島々に出掛け、それぞれの島の魅力にも触れてみたい。（十島村）

【中之島小・中学校からのメッセージ】
教諭　宅島　智也

中之島に赴任をして，１年間が経ちました。初めての地域行事や地域と共に取り組む学校行事を経験する中で，あっという間の１年間でした。

教員になって２０年が経ち，これまで，部活動，専門教科の指導を中心に子どもたちに力を付けようと，努力をしてきました。しかし，この１年間は，これまでと違った環境の中，専門教科以外の教科の指導と悪戦苦闘してきました。専門教科以外の指導をする中で，教科と教科のつながりや指導のポイントなど，教科は違っても共通している部分に気付き，自分のためにも良い経験となりました。特に入試科目に対しては，出題傾向を調べるなど，緊張感をもった指導をしていかないといけないと感じています。

学校以外の生活の中では，ゆっくりと流れる時間の中，健康作りのためジョギングを始めました。中之島の中のいろいろな風景を楽しみながら，自然の雄大さを多く感じることができました。

また，昨年度はトカラマラソンに参加をすることができました。中之島だけではなく，他の島の自然豊かな様子を見ることができたと同時に，島外から参加された方との交流を通し，十島が愛されていることも感じることができました。

十島村は，七つの島それぞれでしか経験できないことがたくさんあります。そのことを楽しみながら，地域の素材を生かして，十島の子どもたちのためにがんばっていきましょう。

シリーズ――十島村で学ぶ
諏訪之瀬島小学校　４年　濱田　千明

私は、リコーダーと読書がすきです。この一年間で、これまでいい上に、勉強をがんばりたいと思います。苦手な一りん車やバドミントンにもがんばりたいです。

今年、妹の幸奈が入学して、一年生になりました。わたしは、お姉ちゃんとしてお手本になれるように、いろいろなことを教えてあげたいです。

わたしの住む、すわのせ島は、人が少ない島ですが、少ないからこそ、島みんの方々一人一人とふれ合えます。道ぶしんでは、少ない人数で、つかれるけど、みんなできょう力して、きれいになった道を見ると、「よくがんばったな。」と、とてもうれしい気もちになれます。

去年から、学校で学習し始めた「八月おどり」では、運動会や村みん文化祭で、島みんの方々といっしょにおどれて、とてもいい体けんになりました。また、自分たちのすわのせ島への思いをこめてかいた港のへき画は、二か月ぐらいもかかってつかれましたが、これからたくさんのかん光客に見てもらえると思うと、はずかしいけど、自まんの作品になりました。

わたしは、この島がすきです。もっとたくさんの人に、すわのせ島のよさを知ってもらって、今いじょうににぎやかで、みんなが楽しくくらせる島になってほしいです。